

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりついたみこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
27～31	① 学校名	兵庫県立伊丹高等学校					
② 象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制 普通科 949名在籍	
普通科	320名	40名	40名		400名		
⑥研究開発構想名	『三方よし』の精神を継承するGBL(グローバルビジネスリーダー)育成プログラム開発						
⑦研究開発の概要	継続的な発展に不可欠な「三方よし」の精神を備えたグローバルビジネスリーダー育成プログラムを開発する。地元のグローバル企業の実地調査と国際交流姉妹校との連携を基に多様性の受容力と好奇心を育て、日本の「食」の強みを再発見し、具体的なアイデアにして、日本語でも「英語の型」でも発信できる生徒を育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>グローバルビジネスリーダーを、「日本文化の理解の上にたち、異文化を受容しつつ差異に目を向けてビジネスチャンスを見だし、アイデアの実現に向けた交渉を経て地域や社会に貢献する人材」と定義づけ、日本を再発見し、その強みを発信する実践プログラムを「食と健康」をテーマに構築する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>〈現状の分析〉ア) 地域からの厚い信頼と支援(殊に小西酒造、松谷化学工業、三井住友銀行との連携実績) イ) 生徒の高い自主性と活動意欲 ウ) 進路に表れる多様な価値観と高い進学意欲 エ) GTEC 継続受験結果が示す英語運用力の高い伸び オ) 独自の英語四技能伸長プログラムやアクティブ・ラーニング型授業の展開が示す教員の高い士気 カ) 国際交流姉妹校との年1回の相互ホームステイが示す多文化受容力の高さ</p> <p>〈課題〉40年を越える総合選抜入試の影響が残り、現状に満ち足りがちな傾向がある。上記ア) とイ) とカ) を生かし、エ) とオ) を更に推進してウ) を伸ばす。</p> <p>〈研究開発の仮説〉日本の地方生活文化は繊細で美しい心性と深い知恵が形作った。日本の地方生活文化と「三方よし～売り手よし、買い手よし、世間よし～」の互惠の精神は、今後日本が継続的に発展するための重要な基盤であると考えている。高校生が、「三方よし」で地元へ貢献してきたグローバル企業、連携大学、国際交流姉妹校との連携による調査活動を通じて地方生活文化を見直し、再発見した日本の強みを「食」をテーマに具体的なアイデアにし、「英語の型」で発信する瞬発力の訓練によって、将来、日本文化に立脚したビジネスアイデアを発信して、日本と地域社会、さらには世界各地の発展に貢献できるグローバルビジネスリーダーになる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①成果発表会を開催する。対象者は、ア) 研究開発関係者 イ) 国際交流姉妹校関係者 ウ) 特に阪神間の中学生および一般の方 エ) 地方都市の活性化担当者 オ) 全国の特に普通科高校関係者 カ) マスコミ とする。グローバルビジネスリーダーへの憧れを次世代につなぎ、日本の地方活性化の端緒になり、普通科のキャリア教育の新たな手法として成果を広く知らせる。</p> <p>②国際交流姉妹校との共同調査を行い、日本食の新たな可能性を「おいしく食べて健康になる新しい食」として提案する。NYと台中で「Japan Fair(仮称)」を開催して、日本への興味と関心を一層集める。</p> <p>③成果のまとめを作成・配布する。</p> <p>④日・英・中、三カ国語のホームページで研究開発の進行状況と成果を発信する。</p> <p>⑤伊丹市商工会議所、ジェトロ、新関西国際空港(株)のイベントで成果を発信する。</p>					

⑧ -2 課題研究	<p><b>(1) 課題研究内容</b></p> <p>「総合的な学習の時間」や本校で開発中の4技能育成英語授業を通して培った表現力と、「英語の型」で発信する力を土台とし、企業、大学、国際交流姉妹校と連携して「食と健康」をテーマとした以下の課題研究を進め、「おいしく食べて健康になる新しい食」の提案へとつなげる。</p> <p><b>ア) 食文化の探求</b></p> <p>日本の地方生活文化の変化に着目し、嗜好の変化や世代間の差異を探る。 伊丹・NY・台中の高校生の食行動や家庭の食文化、健康との関連などを追及する。 大学や研究機関の協力のもと、アメリカ・東アジア文化と食への理解を深める。</p> <p><b>イ) 食のビジネス展開の探求</b></p> <p>老舗小西酒造の「三方よし」の創業精神を学び、新時代の経営戦略、多様性を受け容れた食文化提案の仕方を探る。 「デンブン」総合メーカー松谷化学工業の希少糖開発の道のりや、B to Bの営業活動を学び、フィールドワークを通して海外販路開拓戦略を探る。 経済・金融の動きや食の流通を三井住友銀行から学び、「食」の可能性を追求する。</p> <p><b>ウ) 日本の食の強みの発信</b></p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p><b>〈実施の流れ〉</b></p> <p>① 1年生は320名全員対象。「総合的な学習の時間」を中心にグループワークによる課題研究を進める。地元の食文化調査、留学生との食文化交流から、世界の食文化の差異に視野を広げ、国際交流校のある台中での聞き取り調査を行う。年度末に成果発表会を開き、2年生で活動を継続できる40名を投資活動に見立てた参加者投票を資料に選抜する。</p> <p>② 2年生は選抜者を対象に「総合的な学習の時間」を中心に課題研究を深める。企業の国内・海外拠点を訪問見学して、なにを販売しているか、なぜここでそれを販売するのかを探求するフィールドワークを行う。国際交流姉妹校での食文化行動を探るフィールドワークおよび「Japan Fair (仮称)」を開催し、日英両語による成果発表会を実施して3年目継続者30名を選抜するとともに、全生徒の参加意欲を高めるため追加の参加者10名を追加選抜し、40名で3年目の研究活動を継続する。</p> <p>③ 3年生は今までの成果を基に、日本の強みを「おいしく食べて健康になる」ビジネスアイデアにして提案し、英語による論文作成と発表を行う。選抜された生徒の発表を、機会あるごとに全校生対象に行い啓発に用いる。</p> <p><b>〈検証評価〉</b></p> <p>① 生徒個々人のポートフォリオ ② アンケートの実施と分析による検証 (対象・回数を可能な限り広げる。) ③ 生徒による相互評価と成果発表会での投票 ④ 大学教授や企業関係者による評価 ⑤ 校内委員会 (SGHプロジェクトチーム) による検証と評価</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>総合的な学習の時間 (1単位) に加えて、土曜授業や夏期・冬期・春期休業期間を利用してのまとめ取り (1単位相当) によって実施。</p>
⑧ -3 上記以外	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>「英語の型」で発信できる四技能伸長プログラムの開発をする。現在試行中のプログラムを学校設定科目として独立させて完成する。GTEC 継続受験結果によって検証する。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>特になし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <p>海外複数箇所へ生徒を派遣するための条件整備 国際交流姉妹校とTV会議・NET会議を実施する施設設備の充実</p>
⑨ その他 特記事項	<p>特になし</p>